



県内後期研修医対象

三重大学医学部附属病院

救命救急センター・集中治療室

## 短期研修プログラム

### 救命センターでの1年半を振り返って

三重大学救命救急センターの増井です。卒後5年目で、救命センターでの研修はもうすぐ一年半になろうとしています。

わたしが救命センターで働こうと思ったのは全身管理に興味があったからです。集中治療室では輸液管理、人工呼吸器管理を毎日行います。非常に状態の悪い患者さんが少しずつよくなっていくのを見るのはとても大きな喜びです。ICU入室時には、間もなく亡くなるのではないかと思うような方が見事に復活する症例を何度も体験しました。根本的な治療が行われることが大前提なのですが、24時間常にモニターして少しの変化も見逃さず適宜輸液や呼吸器、投薬の変更などを細かく行っていることが重要なのだと思います。

当院では集中治療のみではなく、救急医療も同じチームで行っています。初期対応でその後の全身状態の立ち上がりは左右されます。初期対応がうまくいかなければ、どれだけ管理を行っても難しいことがあります。また、救急医療では時間が非常に大事です。いかに早く治療を始めるかで予後が変わります。スピードが命です。今はドクターヘリの運用も開始され、医療スタッフが現場に搬送されることにより、さらに治療開始を早くすることが可能になりました。

勤務が続いたり、重症患者が大勢いるときは、体力的につらいときもあります。また、日々のカンファレンスでは上級医に厳しい質問をされることもあります。患者さんのため・とわかっていても、悔しい思いをして一人落ち込むことも多々あります。しかし、心底へこんでも業務を続けているうちに気づいたらまた復活しています。いやなこと、つらいことがあっても頑張ろうという気になるのはやはり非常にやりがいがあるからだだと思います。

救命救急センターでは、知識豊富・経験豊富な指導医の先生が大勢いらっしゃいます。一緒に働いただけで多くのことを教わり、日々勉強になります。チームリーダーとして非常に頼もしく、尊敬できる先生ばかりです。

全身管理や救急医療に興味のある方、医療の分野を問わず得られるものは多いでしょう。きっと有意義な研修をしていただけたと思います。

救命救急センター 増井亜紗実



増井先生は、当センターを一緒に支えてくれている大切な仲間です。毎日毎日、本当によく励まれていて、著しく成長されていると感じています。最近、よりいっそう素敵になられて笑顔がまぶしいです。今後さらに活躍され、三重県の集中治療の発展にも中心メンバーとして力を注いでくれると期待しています。

皆様にもぜひ一度、当センターの後期研修をお勧めします。この短期プログラムは何科の先生でも大歓迎です。各分野のスペシャリストと一緒にここで活躍していただくことで必ずスキルアップしていただくことができます。そして、ぜひ、ご所属の病院へここで培ったスキルを持ち帰って頂き、県内の救急医療と集中治療を共に支えていただきたいと強く願っています。

三重大学医学部附属病院救命救急センター長 今井寛

